

銅・アルミ

市況見通し

11月



橋本アルミ取締役 橋本 健一郎氏レポート

銅

9月の伸銅品生産は同5・5%減の5万6900ト、うち国内前年同月比で1・1%増の9000ト、うち国内

減の6万7066トで、4カ月連続で減少した。内需は同0・2%減の5万5959ト、輸出が同4・4%減の1万1107ト、銅条が同0・2%減の2万2450トとなり、いずれも4カ月連続のマイナス。黄銅棒は同4・8%減の1万4689トとなり2カ月ぶりのマイナスだった。

9月の銅電線生産は

LME銅セツルメント	5800~6400¢	変わらず
電気銅建値	700~770円	変わらず
為替(1¢)	111~114円(1カ月間T.T.M)	変わらず

が同3・9%減、輸出が同36・8%減だった。銅輸出は、電気銅が同1・9%増の4万9895ト、銅スクラップが20%減の2万37

銅スクラップ 景況予想

銅輸入は、電気銅が同84・2%減の372ト、銅スクラップが同5・7%減の9484トだった。

LME・為替予想

銅輸入は、電気銅が上昇がなければ、需給同84・2%減の372ト、銅スクラップが同5・7%減の9484トだった。

電気銅建値は10月月初の75万円から一時77万円まで上昇した後に73万円まで下落、現在76万円まで回復した。このため流通在庫は多少出てくるだろうが、問屋の在庫は在庫は連日80万円時のもと言われており、市中に出回っていないのでは？需要は足元の生産状況が横ばいから減少に悪化してきた。

アルミ

9割以上を占めているため、事業の多角化を進めてバランスの取れた事業形態にシフトさせたい考え。

アルミ

9月の伸銅品生産は同5・5%減の5万6900ト、うち国内前年同月比で1・1%増の9000ト、うち国内

LMEアルミ	1900~2100¢	変わらず
現物後場買い	マイナス5円~0円(前月最終価格より)	変わらず
スクラップ	111~114円(1カ月間T.T.M)	変わらず
為替(1¢)	111~114円(1カ月間T.T.M)	変わらず

アルミ仕が同21・3%減の6286ト。9月の輸入はアルミ新地金が同11・6%減の10万6115ト、二次合金が同11・6%減の8万9683ト、スクラップが同2・9倍の1461ト、合金スクラップが同14%減の2672ト。

アルミスクラップ 景況予想

流通在庫は相変わらずで、中国境の下落を受けてスクラップも連日下落している。売れ玉があるのでは？各種需要は安定し、台風による荷止め被害なども治まったようだ。

LME予想

9月の輸出はアルミ新地金が同8・5%減の151ト、二次合金が同9%減の1640ト、スクラップが同15・4%減の7458ト、

工業 5年で顧客数10倍目指す 菊川 オーダー金属建材以外の柱創出

建築物の金属製内外装工事を手掛ける菊川工業(社長・宇津野嘉彦氏)は、このほど、既存事業の顧客数を10倍に増やすことを目指している。建築業が売り上げの柱を創出する。現在、建築業は左右の柱を創出している。現在、建築業は左右の柱を創出している。現在、建築業は左右の柱を創出している。

非鉄月間市況

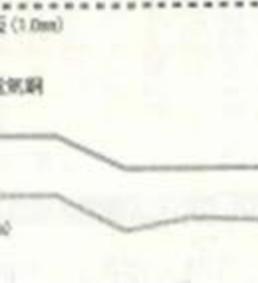
10月

関西地区

なごりが影響し、軟弱だ落した。アルミ地金は月初

去最高値。貿易摩擦懸念の後退などが材料視(流通)その後2日間は小動きだったが、4日には63300¢/台乗せの63100¢。5日は同127・5¢安の6182・5¢だった。6182・5¢だった。

地区非鉄金属市況推移



技術開発



10月29日(10月29日)にわ

ボツワナで探査技術セミナー
12ヵ国から約20人参加